

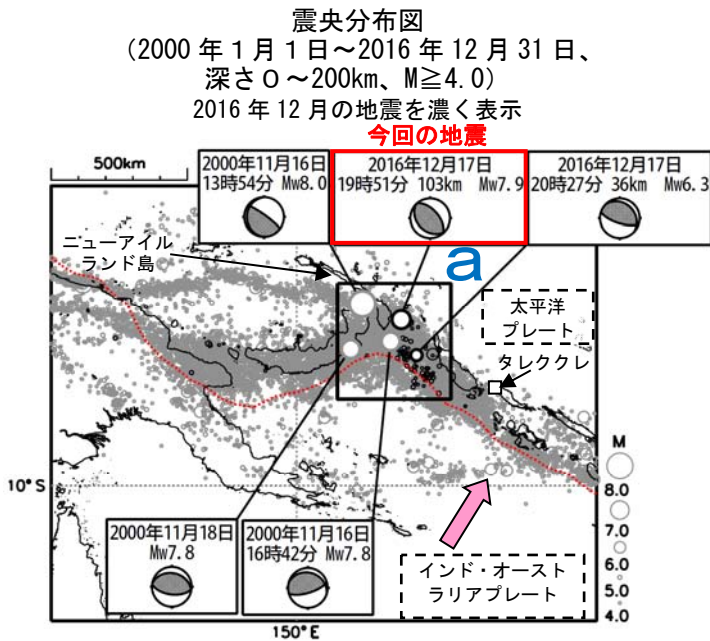
# 12月17日 パプアニューギニア、ニューアイルランドの地震

2016年12月17日19時51分(日本時間、以下同じ)にパプアニューギニア、ニューアイルランドの深さ103kmでMw7.9の地震が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は、北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートに沈み込むインド・オーストラリアプレート内部で発生したと考えられる。この地震の発生後、同日20時27分に深さ36kmでMw6.3の地震が発生するなど今回の地震の震源よりも南側の浅い領域で、地震活動が活発になっている。

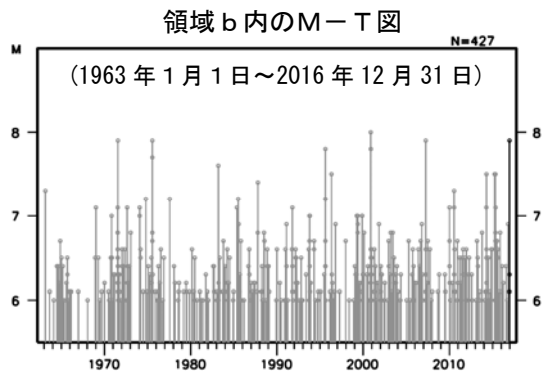
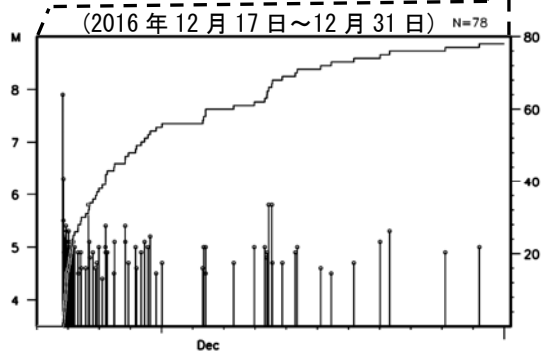
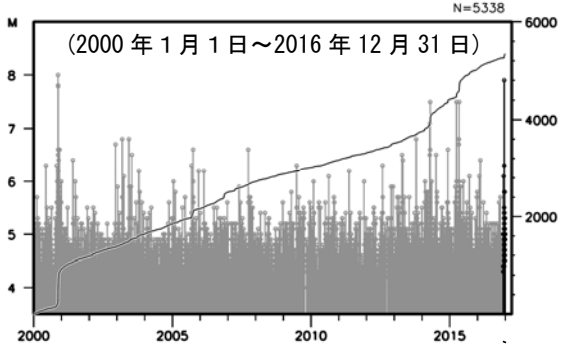
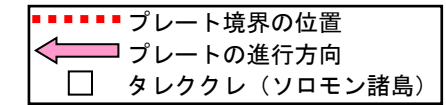
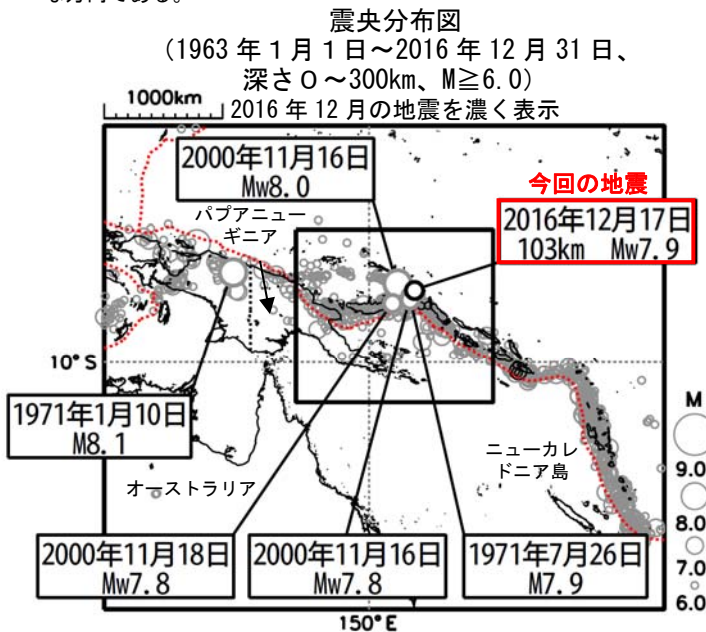
気象庁は、17日20時16分(日本への津波の有無について調査中)、同日22時00分(日本の沿岸では被害の心配なし)に遠地地震に関する情報を発表した。この地震により、タレククレ(ソロモン諸島)で8cmの津波を観測した。

2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域a)では、2000年11月16日にMw8.0、Mw7.8、11月18日にMw7.8の地震が連続して発生し、11月16日のMw8.0の地震では、死者2人、住家被害多数の被害が生じている。

1963年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、インド・オーストラリアプレートの沈み込みに伴い、M7.0以上の地震が頻繁に発生していて、非常に活発な地震活動がみられる。



プレートの進行方向は、太平洋プレートを固定した場合の相対的な方向である。



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。震源要素と2016年12月17日20時27分の地震の発震機構は米国地質調査所(USGS)による。今回の地震の津波の観測値は、アメリカ海洋大気庁(NOAA)による(12月31日現在)。過去の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)\*より引用。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.